

この四字成語は、私の手持ちの日本語で書かれた成語辞典には見当たりません。確かにこの四字の儘では、日本語として語呂が悪いですね。日本語の諺としては、「親しき中にも礼儀あり」が当たるでしょうか。意味する処は微妙に違うようですが。



春秋時代、晋の大臣臼季は冀缺が畑仕事をしているところへ、妻が礼儀正しく丁寧に昼食を運んで来て、食事が終わるまで傍に控えているのを見かけました。彼ら夫婦は、他人も羨む仲睦まじさでした。

晋の国へ帰ってから、臼季は国王の文公に話しました。「冀缺と彼の妻は貧しくても、お互い相手を敬い客のように接していて、彼が素養のあることを示しています。若し王様がこのような人間をお傍において、国を治める手伝いをさせたら、我が国はきっと強大な国になるでしょう」。

晋の文公は臼季の意見を聞き入れ、冀缺を召し出して大事な役職を与えました。

冀缺は、文公の期待を裏切ることなく、聡明な英知を働かせて、文公の政治を国内にゆきわたらせ、国の安定に大いに力を発揮しました。



言葉の意味：「敬」は「尊敬する、敬愛する」、「賓(賓)」は「客人」、この四字成語は、夫婦がお互いに相手を尊敬し、客に接するように丁寧に対応している様子を言う。

使い方：両親はいつも相手のことを思いやっていて、今迄に家事のことで喧嘩なんかしたことが無い。



この言葉を子供たちに教えるのは難しいですね。表面だけを説明したのでは、乱暴な言葉は使わずに、丁

寧に話せばよいのだと誤解されてしまうでしょう。

この反対の例も最近の日本では見られます。親はあまり親の権威を振り回さず、子供に近づいて育てるのが良いという説に乗って、子供に親の名前を呼ばせている若い親たちを時々見かけます。

古い人間のせいか、子供が親の名前を呼んでいるのを聞くと違和感を覚えます。悪いことではないのかもしれませんが、折角お父さんお母さん、あるいはパパ・ママという呼び名があるのに、わざわざ名前

で呼んでも、親しみが増しているようには感じません。却って、人生の先輩である大人に対して敬意を払う気持ちがなくなるのでは、と心配します。

それとは反対に、この四字成語を教えられた子供たちが、言葉・態度だけ丁寧にしたら、これも又おかしいですね。大人でも、唯丁寧にすればよいのであれば、慇

懃無礼になる心配もあります。

この言葉のポイントは、相手を思いやる気持ちではないでしょうか。相手を思いやる気持ちがあれば、時と場合にもよりますが、少々乱暴な言葉でも気持ちは相手に伝わると思います。

子供の教育は難しいですが、この言葉を教える時、先生方には臼季がどうして冀缺夫婦の様子を見て感銘を受けたのかをよく説明し、臼季が冀缺を推薦した理由、冀缺が国を上手く治めた理由が、「相手を思いやる気持ち」であることを子供たちにわかるように話して欲しいと思います。

最近の世の中、世界的に「自国第一主義」とか「排他主義」とかいう思想が台頭してきて、とかく住み難い世の中になって来ました。自分達だけでも時流に乗らないで、他人を思いやる気持ちのゆとりを持ちたいものです。



満柏氏画